「働く」を実感　長中生が町内で職業体験

１０月１２日と１３日の２日間、長沼中学校の２年生が町内２８の企業や施設で職場体験を行いました。

役場広報情報係では山本智崇さんを迎え、朝の放送のアナウンスや取材のお手伝いをお願いしました。

朝の放送では、練習を重ね「ゆっくり、はっきり」を意識し、上手にアナウンスしてくれました。いつもと違う朝の放送に、驚かれた方もいたかもしれませんね。

また、同級生の活動状況を取材しに行った際も、積極的に様々なアングルからシャッターを切る姿が印象的でした。

そのほか、訪問先の企業の方々からは、生徒の皆さんは働き者で気が利くので助かりますとの声が多く聞かれました。今回の職場体験をきっかけに「将来、長沼町で働きたいな」と感じてもらえたら幸いです。

■職場体験を終えて

山本智崇さん

私が役場で職場体験をした感想や思ったことを、簡単にまとめたいと思います。

最初に組織についてです。役場では「人と自然の共生　きらめく田園と交流のまち　ながぬま」をテーマに７つの基本構想のもと町づくりを進めているということを教わりました。

次に、体験したことは、朝の放送の録音です。長沼町で、防災行政無線からしか聞くことの出来ない放送をしました。声を録音する時に、アナウンスボタンを押してから録音をします。あまり聞かない言葉を録音していたので、言葉が詰まったりしましたが無事に録音をすることが出来て良かったです。

次に、カメラの使い方を教わり、取材に行きました。カメラの操作は、最初は慣れませんでしたが、時間が経ったら慣れました。

慣れない体験をしましたが、どこかで活用が出来たらいいなと思っています。

マオイ活動だより

コピトの帽子

観光振興担当
古川　喬士さん

こんにちは、地域おこしの古川です。突然ですが、失くした帽子を探しています。それも一風変わった特別な帽子。作ってくれたのは、マオイの丘の小さな森の中に住んでいる作家「ｆｅｌｔ（フェルト）工房コピト」の吉川ナミさん。

子どもの頃から「表現すること」に魅力を感じていたというナミさんは、20歳の頃、陶芸の道に入ります。その後、札幌の福祉施設でアート支援員として13年働き、8年ほど前に制作表現の核として「羊毛フェルトの帽子」に行き着きました。

森の中の自宅兼工房で、羊の原毛をフェルトに加工して、草木染めなど様々な方法で染め、その時自分にやってくるインスピレーションに忠実に帽子を作っています。

そうして出来上がるのは、思いがけない色彩や模様が重なったり、とんがったり、渦を巻いたり、ただの装身具と呼ぶにはもったいない、それぞれが特別で主役としての性格や主張のある、人の心のような帽子たちです。

10月に18区の字幌内地区にあるポエティカで開かれた展示会でも、多くのお客さんが、展示された帽子を次々とかぶっては鏡の前に足を運んでいました。

「知らない自分に出会えるでしょ」と、その一人に、ナミさんが嬉しそうに話しかけているのが印象的でした。

どれも個性的で芸術的なので、色々かぶってみて、運が良ければ一つ自分に似合うものに巡り会えるといった帽子たち。ぴったりとくる帽子に出会った時は、自分もその帽子に選ばれたみたいで嬉しくなります。

僕の帽子は、去年の誕生日に妻から贈られたものなのですが、折鳥帽子（おりえぼし）のようにてっぺんが柔らかな鉤（かぎ）型に尖っています。色は、セイタカアワダチソウで染めた黄色がかった深緑。フェルトの原毛は、昔ナミさんが飼っていた羊のものだとか。

とても気に入っていたのですが、どこかに置き忘れたのか、今年の春頃から見当たらなくなっています。帽子にも帽子の事情があるのでしょうが、人間としては勝手に「そろそろ帰ってきてくれたらな」と思っています。お見かけの方は、ご連絡いただけると幸いです。

自分のマチが好き

シティプロモーション担当
佐野　亜沙美さん

近隣（由仁・南幌・栗山町）の協力隊の方々と会って話せる機会が去年から時々あります。同じ協力隊でも与えられた仕事や役割がそれぞれ違い、お互いどんな仕事をしているのか、周りの環境はどんな感じなのか、など協力隊同士、距離感も近く共感できることも多々あり、良い機会だと思っています。

その中で話をした協力隊の皆さんは、自分のマチが大好きで「うちのマチはこんなマチだよ」と熱い気持ちを聞くこともあります。

協力隊なんだからあったり前―といえばそうなのかもですが、実際住んでみないとわからない状況で、来てみて「好き」と思えることってステキだなって思います。

もちろん私も「長沼で良かった」と、しみじみ思います。

今までも、仕事や環境が変わるたび「私ってツイてるな」と思えるほど、周りの方々に恵まれて過ごしてきましたが、長沼で2年過ごしてみて、知り合った方々の優しさや温かさに、改めてありがたいと思えています。

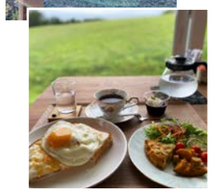
仕事面では、苦手だった文章作成も、確認してもらっている役場の方は、私の伝えたいことを理解し、伝わりやすい文章を教えてくれます。理解してくれる人がいる安心感もあり、あまり悩まずに文章を考えられるようになりました。感謝感謝です。

ＳＮＳも日々少しずつですが見てくれる人も増えてきているので、キャッチできることはしっかり掴んで発信していきたいと思います。

＊　＊　＊

9月に16区の字加賀団体地区にオープンした「Ｃｉ_Ｂａ　ｃａｆｅ（ジーバ　カフェ）」。経営する竹本さんご夫婦の自宅は愛知県にあり、5月から10月までの期間限定で営業しています。ハイジ牧場の牧草地の景色を眺めながら、奥さまが作る道産小麦「春よ恋」１００％の色んな種類のパンと、旦那さまが作るやみつき本格エスニック料理がいただけます。

お庭で採れた野菜や長沼産の野菜を中心としたランチセット「３種のパンランチ」「パニーニランチ」「クロックマダムランチ」はボリュームもあり、お腹いっぱいになります。

営業は9時からで、愛知県の喫茶店では定番の「モーニング」もあり、朝ごはんとしても利用できます。

次回は来年初夏からの営業ですが、何度でも行きたくなるステキなお店なので、機会がありましたら是非食べてみてください。私は辛〜い裏メニューがおすすめです★